

「時」を共有する

岩手県立福岡高等学校 3年 黒澤七海

私たちはともに過ごしている大切な人、時には時空を超えて会ったことのない人と「時」を共有しながら生きている。

家族や友達、先生など様々な人と関わりながら生活している。その中で私たちは時間を共有し、ともに過ごした記憶を持っている。例えば友達であれば行事、普段の授業、他愛のない会話など数えきれないほどの記憶があるだろう。現在の高校生活だけでなく今までの小・中学校で共有してきた多くの時間がある。その時間は友達との関係をつなぐものであり、大切な記憶だと感じている。私には中学校卒業まで仲の良い友達がいた。その友達は中学校卒業後は東京の高校へと進路が決まっていた。そのため、毎日当たり前のように会っていた友達とは会えなくなり、疎遠になってしまうことを恐れていた。だが、その友達とは帰省してくるたびに会い、今までと変わらない関係でいられることがうれしい。久々に会えば互いの学校生活の話や思い出話をする。自分の過ごしてきた時間、相手の過ごしてきた時間を共有し合い、今まで共有してきた時間の話をして笑い合う。そんな時間がとても大切だと思い、また友達との関係を大切にしたいと思う。

また、私たちはともに過ごした人だけで時間を共有しているのではない。例えば先人の書だ。私は高校から書道を始めた。私は書道部に入部した当初は手本通りに書けばよいと思って、ただ書いていた。しかし、書道とはただ書けばよいものではないことに気づいた。書道で手本にしている古典は何百年、何千年も前に中国で書かれたものがほとんどだ。古典の作者によって書風は違う。それを私たちは書風から、どんな人柄なのか、どんな生き方をしてきたのか、どんなスピード感で書いたのか、何を思って書いたのかを感じ取り、自分なりに解釈し、それを表現するために書く。解釈の仕方は人それぞれ違うため、そこに個性が表れる。それが書道なのだと言動を通して学んだ。私は「隸書」という書体が好きだ。隸書は波磔という波打ったような線が最大の特徴としてあげられる。のびのびとした字形で上品さや柔らかさ、その中にある力強さを感じ、作者の性格が表れているように思う。私は国も文化も時代も違う、会ったこともない人が書いたものを、今を生きている私たちが書いていることに感動する。生きてきた時代が違う人と残されてきた書を通して「時」を共有している。

私たちは周囲の人と関わり合いながら生きている。私たちが使っているものや食べているものには、それらを作った人が存在している。書や音楽、本などの人によって生み出された作品は時代を超えて愛されているものが数多くある。そのすべてには関わった人の「時」があり、それらは過去から現在、さらに未来へと共有される。そうやって人は「時」を共有して今日を生きている。